情金魚鑑

ヘ8
4340
3

林

繪本黄金鯖三之巻

以上武没時に有く幕の内へ入下の方侍四人長刀ゝ出る
堂上の糸物ゝに出る踊ゝう諸ゝ丈糸女ゝ刀かゝげ仕て立ゝ出る
大塩付出巻道中行ゝ事る幕の内ゝう糸吸付道ゝ糸布所新馬松浦各ゝう
糸井長矢いづまも麻上下ゝく出て面ふくして

「長六おゝえふれのゝうもゝ南宮九中れ友ゝ々ふゝもゝうゝの振子ゝ出ゝう當内の塚主
糸藤ゝ糸習能長ゝ家中ゝ着れ」「お出迎ひの方糸上ゝ出ゝうゝく々ゝ作る」「所
ゝ主人南ゝ中れ南ゝ今の勅命ふゝうゝくの奇ゝるゝう當ゝ流」「ゝ」「ゝ人の評ゝ看新
長ゝ旅宿の作ゝ付ゝ長ゝ家の親摸ふも成ゝ以間ゝ作ゝ糸ゝ長ゝ」「ゝ
作ゝの長ゝう主人の陽足ゝ人ゝ長ゝ長ゝ味ゝ」「いゝふもいづまも長ゝ」「ゝ
お入」「出ゝ長ゝ」ト内ゝ作迎ゝ長ゝ長ゝ長ゝ作ゝ長ゝ
ゝ敷ゝ長ゝ長ゝ長

造り物二重ばかりに附金秋西の方ふ折迫りせばしあり侍切る番長舘のてんが舘
基ふたつもと関西侍遣五郎が陶ぐとあり上さ赤るが前面とおさいることなく
ちもと知づ月侍吹月遣砂練月るぐさ月風吉月よりげ月青紫時ちあもと
一ちのうふく関西成るどやくそんそ幕ちく

「コ」中関西どの甚狂ふさーもんーら侍遣五郎扶ふももつて「そんく」山塔を
ぬのつくとてんぐーもさーもんをもんぐれよ「ちの陳」「もふ塔西ーく」「わぎさんさちち」「関や」「るんば」
侍軍のお茶ちが甚やふいさ茶ん「ても半ち武士ふ仰合めーくーん拡代とく
てどつのうふのとこーもんけがよんう是がよいうとふ賢さふやうるめこちとと又拡
「侍遣」「アコ」「死ちんくどふでゆうーてトされモウ」「一生くどんもてんぐーもす
さめ清水ふ見じゃく」「トけ寄て」「コレサ弱ぐも何ふもなさめるーじゃひんさち
侍遣五郎どのくお教ち嬢そんれよ此ゆーふどあーつあちこちはんのそぐ技ぢ関西どの

どふどうふて新くちとん姫鳥ともぐふふうく」「アレく武人ともふうく」「この陳」
うんやちは奥ふ滝云「おくん事ちう思ぐ」「この関西成ふてんうふさーもんさ侍遣や
ちのゆうく」「侍遣」のちーもふそんる事ちもうけ上ちの今日ち殿方扶合御陶敷るちく
とや「侍遣」おちん拡代のお茶ちちんば「そんく」「侍遣」行ち用ちの切の折るんば「侍遣」「ほうぞのちと」
ちが接吸「ちもうんかんさくゆちさ茶んせふちア」「関や」「コレ」どふも堪忍ぐるめてちんぐ
頭角侍遣事泉のいうふ又殿方御陶敷の之切ちん今日史侍遣五郎方東ち方関
て上ちる「侍遣」ちちとたちうんぐどうふちうみちぐ」トもぐうちん「侍遣」「アイ」ちくこれふちうよ
ち文坊今のち五郎ちちひ日ちいゆとのちんすんとちちち「侍遣」「コレく」「侍遣」
五郎名ちつやどふでちる今の狂ふちもむめちうふちもの代ちう未殿人見ちぎん
ちぐちぐひとちちとちと関西どのふ侍むとちいふ之ちる別でちうん「侍遣」「カナちちいが意ち
分ののちうんぼう思ひ切ちて為でも思ひ切ちあ思ひの種ちくち嬉ちが安ちりち美ちん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふ役や上杉の姫へ[illegible]と甚だ姫[illegible]いさめてもすゝめても妻[illegible]
つまゝ〳〵ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ好まざるへいとさう〳〵しくと龍臣ゞ目代のこうさたちゝ
同し肋へ家門板の門上ゝ[illegible]その縁組作家とお債[illegible]龍臣ゞ妻[illegible]
子孫ゝ[illegible]〳〵家の[illegible]と家扱家老乃[illegible]〳〵[illegible]小性[illegible]
ゝふざけゝちゝと分金もどつぞ統臣ゞ入ゝ横[illegible]ふれるゝ[illegible]
自〳〵の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
五郎ゝ云分如ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
しゝ自ゞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

迎えの下てる出ふ立ててゆ申 採 何龍長が御ーう 行 ハウ 任意 殿方の御酒盛れい

ト言申 採 やはり御子を姫ぐ後の近ふ 若うもーと 殿方のおうてこと

で坂宮方の後の通うる 知ふおもとーる 日比の思ひ 命 命のこみと中上ハ くどに為こ

へ面くのなぐ 任意 一ちうべ為たもと掛上関屋どのと 拾分 関 ちう申うもるんトうはと

それとうると すり皆方ふんせ ト関屋まいり宿 あうるふうと流子松間屋方 乃間第分上下てちうこう

ふるのかれてうげ 乃間

坂宮方殿方の御酒盛の拾ようやーてゆうもう 採 乃間光俊の真方ふの後目方義ハウ

任意 ゆ御家老衆ふ為シテ奥殿ふ入ハウ中る拾の御接遇 一ちん 上前尾長今うる酒宴

これ中でゆう 行 ハウ 何坂宮方此年内えんそく同船ス川辺る龍長云ちするあやてもあ御上洛

ゆ龍長ち出ス比御の御系内今日御酒の御祝義お国出ちんとちふ分てもかの御家の宝宝ちん

ぐう 造ス 結矢玉ス造風が朗御集 採 それとう分方ちかとち司 助ぐ刀の上龍長ぐう龍

造ス 何今和の拾ようちふ上 拾者ぐう栗 採 ドやらあく 名 ふのびるるぬ ハテ万年と

えさぐが為者の殿員坂宮方いづれも今ーうやぬ為分てこぐれさ 殿方の御酒盛れい

殿方の御酒盛 採 我ゆるぐも国のる いうまもれ ハウ ト言申の国方 私ぐりぐ

ぶ補法 どーふぐちゆーるるんてトされゆせ 任意 龍長為対上下て照ざーゆとうみもくゆ

出る関為力とちう為ふ分ーふる出えへよ為ーく 国 龍長 地人ゆも御宴でお国出ちふ為ま

トゆうて龍長ナりと申ちる関為力と申ーー所 為国ちう為ふ立中出ーー二重 地ちふの下へ為ー

堤ゆく御酒盛の後 採 お国出ちふ為ま 道国ちう為ゆ者九年年の下の国

出ちん 採 ユレ龍長こかちの面ちたぐうぬう後ゆのちうんう 関 イエーー中

坂宮方殿方ゆちおちうちう 外ぬちゆ 採 それちう接遇の拾ようち 名 ハちげんと

拾ドちうち 私ぐりちう御法 為て女ぐちひの龍長ちよおまちぶ行ぐるお言ち

入ゆて為てのまでゆ 関 ゆ お為へお為ちぐと年ち皆の為がゆんぐちふおちを為為

やおまえとこちらへと日比御ざこに入ぬ事でうりそれで御とげんげ「イヤ〳〵何の女だてげ
あの御ざ毎ごとの義に行無人お来ゞ下されるは拙者は多分と入様仕りてそう申る「ナニ
はゞ自も嬉しう多「シテ殿中を扨の貴尾をいづでゞ申る「まも有も我大義の
周旋ゝ親類此年内さん様く同様ゝ玉ふ「我り扨も恐れと扨や其方ともゞ
先近の縁をとらひ縁ふ者で対ゝ安の上洛を氣と嬉ひ存ゝ「扨ゝ上様の御笑見出
安世間の面目ゝ対ゝ助ゝ為のゝ事ゝ扨ゝ記録ゝ伝出さるゝ八ゝ新れ重
宝ゝ乃ゝ朗詠集ゝ御ゝ宝刀ゝ利家ゝ乃ゝ成ゝ同ゝ助ゝ中伝のお立近ゝ拙者ゝ
若上ゝの勅命「イヤ〳〵主宝ゝ朗詠集ゝ対ゝ今ゝ対ゝ助ゝ世安ゝ扨ゝ
なる程ゝ宝紛失「若ゝ様ゝ安ゝ様ゝ何ゝ様ゝ申ゝれゝ今ゝ「行無の知其詠
集ゝ扨ゝ今ゝ自中ゝ伝義ゝ若上ゝ勅答ゝ扨ゝ八ゝ様ゝ盗物ゝ
右の宝ゝ文ゝ為ゝ聚ゝ御ゝ出ゝ今ゝ寅ゝ刻ゝ御ゝ入ゝ

「スリヤ一旦ゝ扨ゝ伝ゝ朗詠集ゝ「今ゝ自中ゝ御ゝ伝義ゝ
中拙者ゝ「若ゝ様ゝ「今ゝ拙家ゝ大事ゝ扨ゝ
御ゝ聞ゝ者ゝ扨ゝ「ハテ殿ゝ御ゝ伝ゝ「ハテ若ゝ伝ゝ「ハテ
さらのもおてのこ伝ゝ伝ゝのお入ゝ家ゝ伝ゝ朗詠集ゝ若上ゝ殿ゝ
夜行ゝ子ゝト「行無人ゝ知ゝ扨ゝ「行無の知其詠
けんぢう当様ゝ今ゝ自ゝ中ゝ扨ゝ「我ゝ伝ゝ中ゝ扨ゝ
万事ゝ食ゝ様ゝ対ゝ宝ゝ「殿ゝ中ゝ扨ゝ
伝ゝ行ゝ先ゝ無ゝ「ハテ御ゝ財ゝ面ゝ
見ゝへゝて「ト「扨ゝ知ゝ扨ゝ長ゝ
「無人ゝ斗ゝ扨ゝ「ひ様ゝ扨ゝ
扨ゝ出ゝて「ハテ元ゝ宝ゝ斗ゝ扨ゝ

新平
侍従五郎
山形乃源

武真
しきのぶ
龍真陽道
侍士小
古屋を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つまとりとぶら「関」「六大宗絵」「折帯もそる程の絵やうとぞ」「そ仏のまーやら

「こんぜのおんまつげも」「ちりぐこふ物ぞ来」「山形九間ちゑ方へうけて

四代古号」「五寸」「ハツスリや」「拙者ゆゑ此鬼の金佛の大宗絵と」「うんとようろうが」「そ

「器ゆゑ佛体無ふんかの巻衣とやーとひ」「ひよ物ん角成ふり生悪鬼のあとなりすま

「今相ゆゑ殿ゆゑ拙者ゆゑ」「そうとうとうとうとうとうせば別ゆゑ人」

「そんゆゑ」「急といふ」「ちくとうとうれば甲ひる」「国の政道と」「ゆる拙者ゆゑ

義一ゆゑ四代ゆゑ」「ひ日夜ひうとうとう」「豊ゆゑ対とうとうせば」「豊絵のゆゑ角成ふせゆゑ悪ゆゑ

「ゆゑ」「十三年ゆゑ」「ゆゑ殿ゆゑ」「ゆゑ殿の巻へと」「カ」「それ更ゆゑ」「ゆゑ生老鬼の金仏老いけん

「逆ゆゑ」「ゆゑ」「ゆゑ」「ゆゑ共ゆゑ不ゆゑ」「ゆゑ」「ゆゑ」「

の上次ぎく迷ふ及ばず別もて常品めて宝ある所の朗詠集と　続　一素朗詠
のよりも　乃　アイヤ〳〵敵は様もよりもてり朗詠集の第八　続　コリヤひろい　乃　ヤ
それでも　続　ハテ知ったいなる　乃　ハット　監　朗詠集　続　俗　処　監物　お入の
上々これなどは朗詠集を上手ずるれば　監　若　ト
るれば身体のはうれいてるる様ど大切なる常あの主宝を逆ふも　文　まいくも
数の体見の上　続　朗詠集を上手ふ　ト　仲　乃　ホウ　者い　監物　仲　食
の為役者を右手お稽古　仲　成程さもう本　延　の中　仲　義
と　続　ハテ扨乃閑仲逆五帝　仲　成　ヤ　ハテ　続　長　テモ　乃
朗詠集　続　ヤ〳〵　仲　成　ヤ　ヤ　監　誹長アノ者ともハ仲　ヤ　続　イヤ
監物様のお入更仲成ヤ仲食逆ヤ　乃　もんど　文　乃　俗の
ちんぢ八ッ　仲　曹　乃　ト　仲　逆　ヤ　仲　義　乃　仲　逆　ヤ　仲　義　乃　仲　逆　ヤ　仲　義　乃

弥生ト　新長五郎ハ　伊達五郎ハ　平ヶ

殿されそ　ハ　ミ　晋て　後ハ　こ　ひ　ん　ど　ま　ま

越前ふき方ハの功ハ　ふ　ら　ぬ　此　秋　長　ご　殿も　出　ぬ　よ　て　ざ　る　さ　ん　和　尊　と　知　ね　コ　チ　う　て

若めゲ　ハ　ゆ　く　金　く　も　て　く　た　よ　ら　ず　秋　殿　保　集　少　て　殿　の　お　ま　ど　ひ　ま　ず　し

ふ　て　も　行　保　ま　ど　て　殿　を　ら　ひ　監　物　な　く　右　の　な　て　ひ　ま　ら　え　て　く　お　賜　ま　と　も　拙　ま

長　ん　ま　ま　ま

〳〵左様成ふも雲とあてゝや〳〵一切も早く在の様子と成る〳〵お組やさん為すべ
〳〵立帰り弟子下部めが殘念さと御指図不申ハ隠居の御近ひ人物と
笑老たんたんと進分吉左右おそへ申上
仕の御家物の御様も知ど　曲者を迎ひとる　見て見ぬふりやも
〳〵スリヤ其曲者ゝ　ト監物ハテナアト監物つゝくと手ぐすねいく　ヤレけが者
為者ものゝ話を入こゝろ組ものゝ働に狼藉者ゝ家来の内いて来ぬ合をひ
大勢の中に成一人其方が働に来ものゝ内ゝ家来ゝ成ぬ者ゝ働の役所
入〳〵家来の内でゝ成ぬ者ゝ成ぬ者ゝ　ト合
の行ぬ成ぬ者ゝ　監　ハテ扨ト鳥ゝ組合ぬ武御の命ゝ成ぬ者ゝ
監物が組ゝ成ぬ　ハテ扨ト鳥ゝ組合ぬ武御の命ゝ成ぬ者ゝ
ぬ〳〵の仕ゝ分ゝ　ハ見様ゝ来ぬ成ぬ者ゝ
成ぬ者ゝ家来の内ゝ成ぬ者ゝ

〳〵成ぬ者ゝ成ぬ者ゝ　ハ　ハ　ハ

朗詠集所老後の為とぞ思ひ上べきと八代監物申つるを聞て
月日記録所主殿所衆を召て能登へ下
くうと朗詠集を　後朝に参上まうと
の法文まで我日の如く有るべしと申
能登国のそ〜対面申さるべ　八代
左中将実明　院使のお役目同じ堂上の交りと
監物　高位　高位　高位
院宣能登に来り体定の内中将と対面
承知仕りまてかりそめ　後朝のぼれと
諸さんと申盃　ハット四系統
当今の勅令下りて所枕の打くり当国の国司
勅　勅宣の統　当国
どうぞくくとの所敷定あるべき勅令下れ故ふて
入城せもかの朗詠集内の上故
右内々申も朗詠集と云ふとの勅宣
よかろう　アイヤ
の勅令下り　文弘の為院使〜て八代監物
てこの朗の所老後　ハット
てこの人同じかず為ちかず
ずばらうき院使の御子　四海の政道

南京左中将
八代目物
許遠州真

ゆるぎなくと云ふ仕遣冊と後一遣ふ丈にがよりの行ふト 詞長彦ハ代久名
監 「かぶろ〳〵ぬ天居の家路くらぞ〳〵物又の松と残る者そう云面云ふ
な世間 「無事ふゆるが大内けの改道ぎゐと仕早く立ゆうごよう
ろふ 監 「素武宮ゐれど大内ふさぐる八代監物取あへぬ無なせんてやし
ど是へ 「ハウト 仲臣 と出た監物も 結冊さうくと云て 「詞長其五奇仕ふ
拙者ガト 「ふくゆれ 「ふんぐゐと云れぐちふされ行国四海仕ふぎる
手代ひゐもいりハテ当と遠物面仕ル母五奇 監 「アイヤ 詞長手て
陳仗の役目あゐがゐれぬそゐ陳宣ナ文ふすぎゐ引き云拙とやゐう
拙〳〵や弟云仕ゐく人とやどい五下を大名ゐどゐて仕がも面拙詞
長も承知で無人今の五云仕ゐんせくゐぐぼ〳〵しさがよいてや 「そゐや
其方が事此中ゐを禁意の勅令ゐうんど当面五帰留それ不同どやゐ

身の程ぎゐぬ面人でゐる 監 「監物が母所ふ五九ぎゐ拙の孫紋ゐど
ゐゐ門脇いひあく立ゐ五ゐ悪くゐぎ浦〳〵と冥遠の孫く云拙
陶ア の時ゐう見物が金札の孫札ゐ事の紋ぬ すア 其内ゐあくゐれハテ
笑山千万 「陳仗ゐ監物ゐや中孫がゐゐん財面のゐげ 監 「ふりやまふ
ゐふ系れ 監 「いりやゐゐむ五いゐふも面孫 「すア 是く 詞 「スリや 所ゐ高ゐハ
監 「イヤくゐ〳〵ゐ孫長ゐ云ゐい ト 「わゐ陳仗ゐ
ゐ監物ゐや孫南仕成陳 「孫宣ゐと五ゐ
ゐいれば五陳ゐ方がゐゐの朗孫仕系ハゐふ入ぬ孫ゐ五系仕ゐくゐり〳〵 出る
ゐと云 監 「ゐゐ〳〵ゐさん系ゐ出五ゐ云系仕ゐくゐり〳〵 出る
ゐ三ゐゐふ五ゐゐ孫ゐ孫ゐ孫

仕事ニかまはずもの山のこと大名をおもてとなしてゆせてれすぎるゆせてれすぎる
いうあり　中略　磯かるをひのもぎまつぬ弥ぐ〜ぎまつ〜てくらまつ〜と思く
む　監　こゝろくかくいぢくるとゆんぐくさんくるをもるをせめぞ　中略　スリやいろやう
まつかても　監　ちうくこゝ宝をもるゝ　中略　是迄一方を所持ろう　監　ちゆれ
ぐれ〜　中略　オア　監　中略　オア　中略　オア　監　ちうくこゝ　ト　ゆうぎまへ　ちうくこゝ
ゆうなぶ　中略　監　ヤ　行と　エイ　ト　まんくしゆうけんを寺　監　物刀れ
ちうくて　中略　ちうくこゝ　中略　ちうくこゝ　中略　ちうくこゝ　中略　ちうくこゝ　中略　ちうくこゝ
ちうくこゝ

[illegible]

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

[illegible]

[illegible]

[illegible]